

ユニバーサルデザイン

UD

2026 March

Vol. 6

さがみはら

ユニバーサルデザインでインクルーシブ&ダイバーシティなまちづくり



▲料理実習を見守る盲導犬



◀全盲の難波創太さんが講師となって月餅づくり



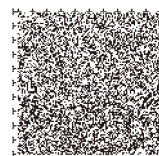
車いす参加者もチャレンジ ▶

いま、UD を実践・展開する市民たち

- ユニバーサルデザインでチャレンジする
「こころの月餅づくり」
- 特別扱いではなく 環境の工夫で誰にとっても“みかた”
- わたしに使えるよう工夫した便利グッズは
誰でも使える UD 品質

UD（ユニバーサルデザイン）とは、
「みんなが暮らしやすくなるための工夫」のことです。

▲視覚障がい者の手を取りながら



この通信は、令和7年度市民協働提案制度事業「ユニバーサルデザイン普及・啓発事業」として地域包括ケア推進課とNPO法人ここずっとが発行するものです。

UDを実現するのは丁寧なコミュニケーション

お膳立てよりも困りごとを楽しむ気概をもってみんなでコミュニケーションをつくる——それこそがインクルーシブ

2026.02.08
映画『こころの通訳者たち』の出演者・難波創太さんを招いて月餅づくり@ユニコムプラザさがみはら実習室
主催：NPO 法人ここぞっ

ドキュメンタリー映画『こころの通訳者たち』は、映画の音声ガイドづくりを記録した作品です。この映画に出演する難波創太さんは39歳のときに事故で全盲となりながら、三軒茶屋で〈ボディケア・キッチンるくぜん〉を経営。映画の中では音声ガイドのモニターとなるだけでなく月餅づくりの講師となって登場しています。映画を鑑賞した市内中央区在住の車イスユーザーの女性から、「わたしは料理教室に参加しようとしても車イスを理由に断られる。ぜひ、月餅づくりをしてみたい」と声が挙がってから2年。企画の準備会ができたのは、2025年12月8日でした。そこで話し合われたのは、困ったことが起きたら楽しんでしまおうということでした。障がいとはチームの特性として話し合いながら身振り手振り、ホワイトボード、ジェスチャー、触覚などあらゆる手段を使ってコミュニケーションしよう。それでこそ、UDだし、コミュニケーションがインクルーシブを実現するのだから、と。一気にワクワクした気持ちが高まりました。

しかし、迎えた当日は雪。恵まれない天候の中、車イスユーザーをはじめ次々と欠席の連絡が入り、ワクワクはしばまざるを得ませんでした。それでも、講師の難波さん、アシスタントの近藤尚子さん囲んで、文字通り手取り足取りの月餅づくりを果たすことができました。案ずるよりUDは易し。「楽しくて、次の始まりになるような機会にしたいね」と今後のUD企画にチャレンジする下地になったことを実感しました。



▲25.12.08の準備会のようす
いちばん左が難波さん
車イス利用者の友人に同じく全盲の友人

ここ? UD そこ!

特別扱いではなく環境の工夫がユニバーサルデザイン

NPO 法人ぴあっとは子どもたちの“みかた”だけでなく 誰にとっても“みかた”なのです

ぴあっと NPO 法人ぴあっと <https://npo-piatto.jp/>

私たちは、生まれつきの脳の働き方の違いによって、行動や感じ方、情報の受け取り方に特性があり、それは人それぞれです。ユニバーサルデザインを具体的に考えるとき、発達障がいの人にとっても、過ごしやすかったり、力を発揮しやすかったりする環境を作ることは、とても大切な視点になってくるはずなのです。

NPO 法人ぴあっとは発達障がいや知的障がいのあるお子さんとご家族のあったらいなを形にする団体です。代表理事の五十嵐舞子さん、事務局長の杉山千恵さんにお話をうかがいました。



代表理事の五十嵐舞子さん(左)
事務局長の杉山千恵さん(右)

NPO 法人ぴあっとでは、学校などで出前授業を行い、子どもたちや教職員に向けて発達特性について伝えています。障がいの説明をするのではなく、感じ方や受け取り方の違いを体験的に伝え、「どうすればみんなが過ごしやすくなるか」を一緒に考える取り組みです。



例えば、同じ教室の音でも強い苦痛を感じる人がいることを体験的に紹介したり、感じ方の違いなどから食べられるものが限られてしまう子も

ることを伝えたりしています。また、その場合にイヤーマフの使用や代替食の持参などの工夫があることも具体的に共有することによって、「特別扱い」ではなく「環境の工夫」であることを伝えているのです。

NPO 法人ぴあっとでは、2024年に保護者を対象とした子どもの発達支援に関するアンケートを実施しました。学校ごとの対応の違いや、柔軟な配慮によって子どもが落ち着いて過ごせるようになった事例など、多くの声が寄せられたそうです。五十嵐さんは、「事例って、とても大事で、いい事例を横展開していただきたいと思っています。」と話してくださいました。よい事例が共有されれば、「前例がない」という理由で立ち止まる場面も少なくなるのかもしれませんが。事例を積み重ね、分かち合うことは、ユニバーサルデザインを前に進める具体的な手立てでもあると考えさせられました。

五十嵐さんは、「特別支援教育や療育は障がいのある子ども向けと言われますが、実はすべての人にとって有効なものだと思っています。それがもっと一般的な社会に広がれば、過ごしやすくなる人が増えるのではないのでしょうか」と語ってくださいました。視覚的に手順を示す、予定をあらかじめ伝える、静かな空間を用意する——そうした工夫は、発達障がいのある子どもだけでなく、多くの人にとっての安心につながります。

ユニバーサルデザインは、特別な人のための特別な取り

組みではなく、多様な感じ方を前提に環境を整えていく考え方です。発達障がいの視点を意識することは、その考え方をより確かなものにしていくのではないのでしょうか。私たち一人ひとりが事例に学び、小さな工夫を重ねていくこと。その積み重ねが、誰にとっても過ごしやすき社会につながっていくのだと感じました。

中央区で始まった通学支援モデル

相模原市は屋外での移動に大きな困難がある障がい児を対象とする通学支援事業について、2025年7月から試行的に実施しています。2026年2月6日には「障がい児の通学支援を考えるフォーラム」(主催・相模原市)が開催され、NPO 法人ぴあっとから保護者の事例発表が行われました。通学支援制度を持つ自治体は全国82の政令・中核市のうち35%の29市にとどまる(25年7~8月時点)なか、インクルーシブ教育の考えを踏まえ、障がい児の学びの機会への参加を支援するとともに、子どもの障がいの有無にかかわらず、保護者の仕事と家庭の両立を促進していく取組みは頼もしいです。

💡 NPO 法人ぴあっとは発達情報サイト「みかた」を開設しています。
“立場と所属の垣根を越えて手をつなぐ”ことを目指してきめ細かな情報サイトを運営しています。👉 URL:<https://hattatsu-mikata.com/>

わたしに使えるよう工夫した便利グッズは誰でも使えるUD品質

謎の器具が装着されたまな板。斜めに組み合わさった木製の器具には爪切りが接着されている。

これらは、淵野辺公園で開催されている「市民活動フェスタ」に遊びに行った時に「たくみ21」のブースで目に止まったものです。



たくみ21の田村さんご夫妻

話を聞いてみると、片手が使えない方のための自助具だということがわかりました。自助具についてもっと詳しく知りたいと思い、事務局長の田村さんを訪ねました。

「僕ね、『ユニバーサル』ってあんまり好きじゃないんですよ、実は」

取材開始最初に田村さんが発したのがこの言葉。確かに「たくみ21」の製品は、使用者個人のニーズや特性に合わせた「その人専用」のものであって、「誰にでも使える」ものではないためユニバーサルデザインとは正反対なのかも

しれません。『ユニバーサル(誰にでも)』の範囲を『どこまで拡げるか』が大事。それでもどうしても漏れてしまう人がいる(田村さん)

その漏れてしまった人が必要としているものを当事者と一緒に向きや角度、大きさや強度などさまざまな視点で試行錯誤して作る。そうして出来上がったものが冒頭のまな板や爪切りだったのです。

事業としてではなく、市民団体として自助具作りに取り組む「たくみ21」。出来上がった製品はオーダーメイドになるので開発費を含めるとかなりの高額になるため、これは開発者の研鑽費と考え、実際に提供する道具を作成するために費やした材料費と製作時間から算出した価格で購入することができます。

開発した製品の特許は取らないというのも「たくみ21」の特徴。「必要とする人がいるのであれば、誰でも作ってほしい。安く作れるならその方が使う人も助かる。(自助具が)普及したら嬉しい(田村さん)

展示会では来場者に「まだお世話にならないから」と言

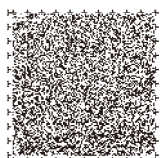
われることもあるそうです。しかし、いつどのような形で自助具が必要になるのかは誰にもわかりません。田村さんが自助具と出会ったのはお母様の関節リウマチ発症がきっかけ。自分や身近な人が「困ったな」という状況になった時に「こんな便利なものがある」「自助具を作ってくれる人がいる」ということを知っているのといないのでは気持ちの持ちようも変わってくるのではないのでしょうか。

田村さんの最初の開発品である爪切り台を使ったご依頼者さんは「何十年ぶりに麻痺してる方の爪を自分で切れた!」と大喜びしたそうです。

病気や怪我や加齢で体が不自由になったとしても、自助具を使って自分でできることが増えれば不自由は減り笑顔になれる。その笑顔が周りの人をまた笑顔にする。「たくみ21」は、自助具と共にたくさんの方のハッピーを作っているのです。



▲ピンに刺したり押さえをきかせて片手で切れるまな板
麻痺側指の爪切りのために▲指を乗せる爪切り台



ユニバーサルシートって、何？

誰もが安心して外出できるまでに

市議会でも
話題に！

トイレは全ての人にとって欠かさない設備。高齢者や障害者、小さな子どもにとって外出時に利用できるトイレが見当たらない事は移動する際の大きな制約となります。車イスやベビー



▲ユニバーサルシート

カーでも入ることができる広いトイレ、ベビーチェアやおむつ交換台、オストメイト等が設置され、より多くの方が使える施設になってきていますが、それでもまだ外出先のトイレに困っている方はいます。その解決のひとつがユニバーサルシート。子どものオムツ替えだけではなく、高齢者や障がい者を含む、多くの方が共用できる介助用大型ベッドのことです。主に車イス対応の広いトイレ内に設置されています。

2025年12月定例相模原市議会の一般質問で、五十嵐千代議員（中央区選出）がユニバーサルシートの整備状況について質問しました。相模原市の回答は次のとおり。

“県による調査結果で、令和7年1月現在、けやき体育館や相模原北警察署など11施設で設置しており、そのうち7施設で長さ150cm以上の大型シートを設置しているものと承知している。”

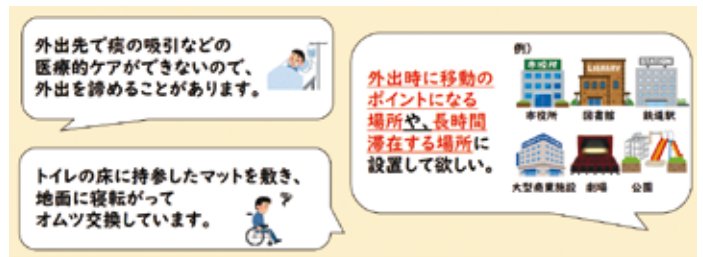
「市議会だより」より引用

<https://www.sagamihara-shigikai.jp/doc/2015073000015/>

神奈川県では2025年10月から当事者目線の障がい福祉推進条例の理念を踏まえた取組として、県全体で、ユニバーサルシートの設置を広く推進していくことになりました。設置届出を推奨し、設置個所の集約・公開を行っています。また、ユニバーサルシートの仕様や設置する際のポイントについて

①長さ150cmから180cm程度、幅60cmから80cm程度のものを推奨 ②車椅子からシートへの移乗動作や介助者の動作も考慮して設置位置を検討する ③折り畳み式を導入した場合の次の利用者のための折り畳み注意喚起等、きめ細やかな指針を示しています。

「相模原にはユニバーサルトイレ・シートがあちこちにあるから誰でも、誰とでも気軽に外出することができる」と多くの方が思えるまちなになると嬉しいですね。



誰もが安心して自由に外出できる社会を目指して、**ユニバーサルシートの設置をお願いします。**



▲神奈川県 HP より引用

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/101960/udchirashi2.pdf>

防災おたすけユニバーサルデザイン コミュニケーション絵本

災害時にコミュニケーションが滞ることは、ひとりひとりの安全・安心に直結します。コミュニケーションの質を高め、命を守るために、ユニバーサルデザインの普及は必要不可欠。むしろ災害時にこそ、ユニバーサルデザインは力を発揮します。

2月21日大野北公民館で開催された「おおのきた防災フェスタ」（主催・おおのきた防災実行委員会）では、わたしたちNPO法人こぞずっとも出展し、UDトークの体験会を実施しました。UDトークは、消防署でも利用されている聴覚障害者とのコミュニケーション補助ツール。話した内容がリアルタイムで文字に書き起こされ、非常時にも役立ちます。

本シリーズではそんなユニバーサルデザインの防災グッズを紹介していきます。

今回紹介するのは、「たくみ 21」さんの元会員開発のアイデ

アグッズである「コミュニケーション絵本」。会話が難しい方と円滑にコミュニケーションを図るために作られた筆談用絵本です。指さして簡単に意思疎通できます。防水紙を使用しており、英語表記もあって外国人との会話も可能です。こんな絵本が避難所があれば安心ではないでしょうか。



UD さがみはら vol.6 ■ 2026年3月25日発行
相模原市地域包括ケア推進課・NPO 法人こぞずっと



〒252-0303 相模原市南区相模大野 9-6-18
☎042-851-5646 FAX042-742-0447
<http://www.cocozutto.jp/>

UD さがみはらのバックナンバーの音声版は右記 QR コードの YouTube チャンネルから聞くことができます。



@ud_sagamihara



ud_sagamihara

みなさまからのご意見や情報提供を募ります。

投稿先⇒e-mail:udsagamihara@cocozutto.jp